



真実を求め  
真実を語り  
真実を行う



令和6年度妻中学校だより

2024年11月

11月号



妻中HP

校長

伊東 泰彦

この通信の著作権は妻中学校が有します。無断で文章・画像などの転載を禁じます。

## 第78期生徒会発足！

第78期の生徒会がスタートしています。今年は、役員改選で当選した執行部員たちが、それぞれどんな学校づくりを行いたいかをプレゼンし、そのプレゼンを踏まえた互選によって各役職を決めていきました。生徒会長・長友大武さん、副



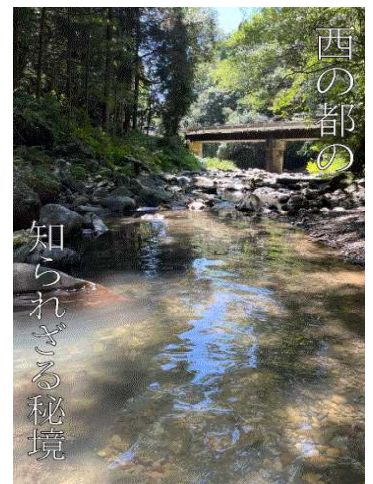
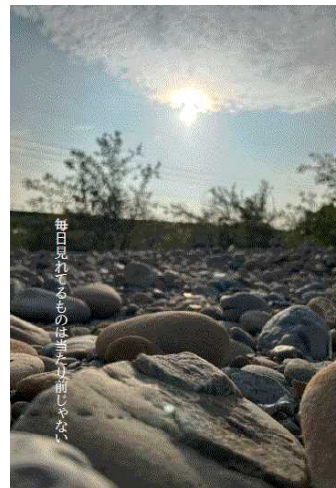
第78期・生徒会執行部



生徒会執行部・全校専門部認証式

## ふるさとSight展開催！「郷土PRポスター」制作

会長・八代琴未さん・津江結吏さん／広報・菊池彩香さん・増田かんなさん／庶務・田崎脩さん・齋藤彰真さんが78期のスタッフとなりました。「生徒が主体となって挑戦していく学校創り」を目指し、現在、新しい生徒会スローガンを作成中です。



本校では、生徒が自分で撮影した写真にキャッチコピーを載せる形式で郷土PRポスター制作にチャレンジしています。今年も、投票で選ばれた5作品を校門横にパネル掲示する予定です。



## 三真の轍<sup>わたち</sup>

鉄道・妻線の思い出

もうすぐ11月30日ですが、

昭和59(1984)年のその日は、当時高校2年だった私たちの世代にとって非常に思い出深い日です。皆さんは、西都市に国鉄・妻線が走っていた事をご存じでしょうか。実は今年は、妻線開通から110年、そして妻線の廃線から40年目の節目の年になります。妻線最後の列車が走ったのは私が高校2年だった1984年11月30日、肌寒い晩秋の日でした。当時佐土原地区から高校に通う同級生達は妻線で通学していましたが、私たちも宮崎へ遊びに行く時は当たり前のように妻線を使っていましたから、その足が本当になくなる衝撃は相当なもので、最後の日はたくさんの方が駅を埋め尽くしました(左写真)▼妻線は、日本初の鉄道開通横濱新橋から約40年後、産業の発展や資源開発を目的に大正3(1914)年に開通しました。旅客はもちろん木材資源などの運搬も盛んになり、8年後には杉安駅まで路線延長。これにより、妻穂北・杉安駅周辺には小市街地が形成され、西都原が国鉄の周遊指定地になると杉安峡遊覧とセットで観光客が増加するなど最盛期を迎えます。しかし、高度経済成長に伴う車社会の到来によって利用客は次第に減少、まず貨物輸送が昭和46年に廃止となり、ついに昭和59年に廃線となりました▼偶然ですが、今年7月、故・弥勒祐徳先生の絵「妻線最後の列車」を寄贈いただきました右下写真。先生の描かれたキハ20系気動車の姿は、最後の列車のものの哀しさや沿道の人々の妻線に寄せる思いが実に見事に表現されています。絵が写真よりもリアルに表現される理由の一つは、作者の思いが自由自在に表現されるからですが、先生の絵から改めて実感させられます。

(校長 伊東泰彦)

妻駅の様子(妻中50年誌より)



## 様々な取組を紹介！

### 宮日新聞記事検索ソフト「みやスタ」活用の社会科授業(3年)

11月22日、赤木先生による社会科の公開授業が行われました。趣旨は次の2点。①地方自治をより自分事として具体的に理解するため、記事検索ソフト「みやスタ」を活用すること。②授業のゴール目標を設定しておくことで、生徒達がゴールへ向かって学びを進める力を高めること。西都児湯地区の先生方が約30名ほど集まり、実際に代表生徒の感想や意見を聞きながら研修を深めました。3年生たちの作成したレポートや発表内容はとても質が高かったです。



提言発表の様子



事後研での振り返りの様子

### 県生徒指導研究大会で「デジタルシティズンシップ教育」の取組を発表

本校では、SNSやスマホの使用における主体性を育てるため、デジタルシティズンシップ教育に取り組んでいます。11月22日に行われた生徒指導の県研究大会において、島埜内樹先生がその取組を発表されました。

学校では一人一台端末による学びが加速していますし、中学生のスマホ所持率も上がっており、子どもたち一人一人がそのツールの使い手としての意識を高めておく必要があります。今後も継続的に学習をさせていきたいと思っています。



### 県租税作文で銅賞受賞

本年度の宮崎県租税作文コンクールにおいて一年の長友葵愛さんが銅賞を受賞し、表彰されました。

